

名村 肇 議員



佐藤勝徳 議員



当町の安全・安心な取り組みは

町長——地域住民のアイディアと理解・協力で進めていく

議員 町内会(集落)の境界問題はどうかっているのか。

町長 条例や規則等による明確な区分を行っておらず、従前からの慣例でその境界が区分されてきたのが実情であり、財産や権利も有する独立団体であるので、自主的に当事者間で合意し、届出による受理・承認してきたところであり、当事者と町内会の合意により決定されたことに対し、行政が口を出すことは適切でないと考えます。

議員 廃校の活用は進んでいるのか。

町長 旧差首鍋小学校については「学校施設跡地利用計画書」において、差首鍋地区生涯学習センターとして利用計画があり、周辺の施設等も老朽

化が著しいこともあり、今後旧差首鍋小学校の使用二丁は一層高まることから、差首鍋地区における生涯学習推進の拠点として、更にはスポーツ・レクリエーションや

地域コミュニティ育成の場として広く住民の利用に供し、差首鍋地区及び町全体の活性化に結び付けたいと考えている。

議員 医師確保はなされたのか。

町長 当町立病院のような山間・へき地の自治体病院の医師不足が顕著に現れているが、山形大学医学部医局への要請や、町ホームベージュでの募集、県ドクターバンクへの登録、医事新報への広告等の他に、多方面への派遣要請等積極的な働きかけを行ってきたこともあり、11月30日に最上総合支庁長と最上保健所長から、自治医科大卒の医師1名を派遣することが内定し、本年2月の正式発表を待つことになっている。



医療現場



旧差首鍋小学校「なしだんご」作り

今後現在交渉中のパート勤務の医師や町出身医師、以前勤務経験のある医師への積極的な招へいを継続して行い、安心できる医療体制をめざしていきたい。

議員 児童生徒の体格は向上しているが、体力が伴って向上していないといわれている。町内の児童生徒はどのような状態となっているか。また、以前では考えられない怪我や事故が起きている。これは日常の運動不足に起因するものなのか、その原因についてどう考えるか伺う。

議員 隣近所同士がお互いに密接に付き合いをしていた時代と異なり、都市化が進み希薄な人間関係が普通になった現在、高齢化が進む状況の中で、高齢者家族や一人暮らしの高齢者の状況確認は行政の重要な課題である。高齢者の確認策としてどのようなことを考えているのか伺う。

町長 災害時要援護者支援台帳整備のため、75歳以上の一人暮らしや高齢者のみの世帯を福祉課職員、福祉協議会の支援員、民生委員が訪問し、台帳搭載にかかる説明と登録申請の支援を行いながら、安否確認と種々の相談に応じている。町では、真室川郵便局長と地域見守り活動につ

いて意見交換をした。又、水道検針委託業者にも地域見守り活動協力について要請を検討していきたい。

議員 法務省の調査では、全国的に「学校でのいじめ」が多くなっていると報告されている。本町におけるいじめの実態について把握しているか伺う。

議員 児童生徒の体格は向上しているが、体力が伴って向上していないといわれている。町内の児童生徒はどのような状態となっているか。また、以前では考えられない怪我や事故が起きている。これは日常の運動不足に起因するものなのか、その原因についてどう考えるか伺う。

教育長 23年に文科省が実施した体力・運動能力調査によれば、県全体的に、小・中学校とも走る・投げる・飛ぶ、のすべてが全国平均を下回っている。

- 高齢者世帯の確認策は
- 全国的に学校でのいじめが多くなっている。本町の実態は

町長——災害時援護者支援台帳整備に併せ安否確認をしている
教育長——継続観察等注意深く行い再発防止に努める



小学校体育授業

学校では直ちに、学級・学年、部活の場を活用しての実態確認、本人への心のケア、相手側への指導、全体指導等を実施し、早期の解決を図った。学校としては、いじめの特性上、さらに「継続観察・継続指導」を注意深く行いながら、再発防止に努めている。

それを受けて、県ではそれらを改善するために、こどもの体力向上支援事業、体育授業の充実や地域スポーツ人材の活用支援事業の継続等の取り組みを実施する。また、体力向上を目指す観点から、自家用車による児童送迎をしないよう保護者をお願いしている。

ここが聞きたい!